

帝京大学女性医師・研究者 支援センターのご案内

Teikyo University Support Center
for Women Physicians and Researchers

【Access Map】



- JR 埼京線「十条駅」北口下車、徒歩約10分
- JR 京浜東北線「王子駅」下車、国際興業バス6番のりば / 板橋駅行10分、「帝京大学病院」下車
- 都営三田線「板橋本町駅」A1出口、徒歩約13分

帝京大学女性医師・研究者支援センター 〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1 病院棟6階

開室曜日・時間 月～金 / 9:00～17:00

Tel. 03-3964-8456 / Fax. 03-3964-8457 / E-mail : women@med.teikyo-u.ac.jp

WEBサイト

http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/support_center/



問い合わせ
フォーム

http://www.teikyo-u.ac.jp/contact/support_center_form.html



PHILOSOPHY

【帝京大学女性医師・研究者支援センター 理念】

女性医師・研究者支援センターは、女性の潜在能力を最大限に引き出し、女性の社会的役割と両立させながら質の高い研究活動が生涯にわたって行えるよう、女性医師ならびに男女問わず全学の研究者の人材育成をめざして活動しています。

センター長からのご挨拶

2013年4月に、帝京大学女性医師・研究者支援センターが開設されました。当センターでは、女性のみならず本学に所属するすべての人が目標に向かって活動できる場をめざし、働きやすい環境の整備と、女性医師・研究者を中心とした研究力向上の取り組みを一步ずつ進めてまいりました。今後も男女共同参画推進委員会と協働で、各種支援制度のさらなる充実をはかるとともに、時代の要請に合わせて事業を展開いたします。本学がより開かれた活気のある大学として、皆さんがいきいきと研究・教育に取り組めるよう活動を続けてまいります。



女性医師・研究者支援センター長

冲永 寛子 教授

【PROFILE】

東京大学医学部医学科卒業。博士(医学)、医師。東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科を経て、帝京大学常務理事・副学長・医学部教授。日本内科学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本甲状腺学会などに所属。

日本の研究者に占める女性比率

15.7%

— 諸外国の研究者に占める女性割合 —



(備考)
 1. 総務省「科学技術研究調査」, OECD「Main Science and Technology Indicators」, 米国立科学財団(National Science Foundation「NSF」)「Science and Engineering Indicators 2016」より作成。
 2. 日本の数値は, 2017(平成29)年の値。韓国は2015(平成27)年値, ドイツは2013(平成25)年値, その他の国は2014(平成26)年値。推定値及び暫定値を含む。

OUR VISION

誰もが長く働き続けられる支援体制の構築に努めています。

男女共同参画社会の
構築



研究者育成

誰もが仕事と家庭を両立できる環境の整備を中心とした「男女共同参画社会の構築」と、女性医師・研究者を中心にキャリア構築と研究力向上をめざす「研究者育成」を車の両輪の関係ととらえ、このふたつに注力し支援活動に取り組んでいます。

ダイバーシティ環境整備の実現に向けて

学長のもとに、全キャンパスに支援を展開するための体制を構築しています。男女共同参画推進委員と女性医師・研究者支援センターが両輪となり、教職員が働きやすい職場環境を整備し、研究・教育力をさらに向上させるために、より広いダイバーシティ環境の実現をめざします。

環境整備

女性が出産・育児、介護などのライフイベントに遭遇しても、長く働き続けられるような支援制度と環境づくりを行っています。

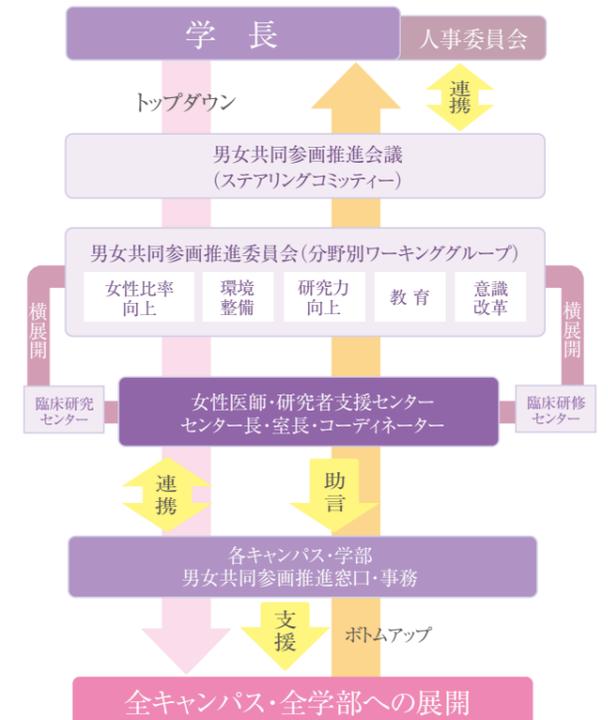
研究力向上

女性が研究者としてライフイベントと両立しながら着実にキャリアを構築していくための研究力向上取組を行っています。

意識改革

全ての人が参画できる社会の構築をめざし、多様な視点で自ら行動するための意識改革に向けた取組を行っています。

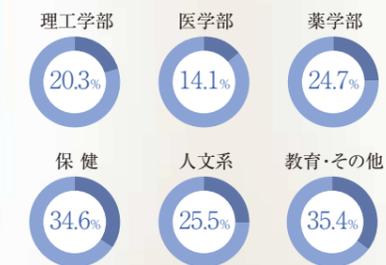
【学内支援体制イメージ】



本学研究者における女性比率

24.8%

— 学部毎の女性研究者割合 —



※2018年5月1日現在

本学の研究者が 家庭と仕事の両立で 困難を感じる事について

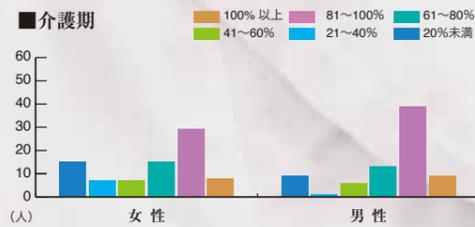
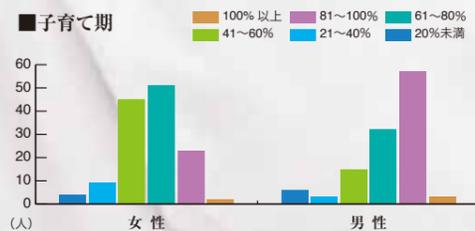
18歳以下の子どもがいる209名に質問しました。

- 子どもの急病時等欠勤・遅刻しなければならないこと
- 帰宅後の調理や子どもの世話
- 子どもの急病時の預け先の確保
- 自分の時間がとれないこと
- 職場への配慮
- 時間に制約があり残業できないこと
- 家族への配慮
- 仕事の時間がとれないこと
- 掃除・洗濯などの家事
- 急な残業時の子どものお迎え
- 職場での昇任・昇進が遅れること

出典：2017年度 学内調査「育児・介護と職場環境に関する調査」
(帝京大学女性医師・研究者支援センター実施)より抜粋

子育て期、介護期の 仕事の進み具合について

十分に仕事ができる状況を100%とした場合、
子育て期・介護期の仕事の進み具合を質問しました。



出典：2017年度 学内調査「育児・介護と職場環境に関する調査」
(帝京大学女性医師・研究者支援センター実施)より抜粋

OUR ROLE

女性医師や研究者がライフイベントと研究を両立しながら
働きがいをもって成長していくためのサポートをしています。

女性医師・研究者への子育て支援

保育施設利用補助制度

夜間・休日保育や病児・病後
児保育など、突発的に保育施
設を利用した際にかかった費
用の一部を補助することで、
教育・研究活動と家庭の両立
をサポートする制度です。



ベビーシッター割引券発行事業

本学業務に従事するために、
指定ベビーシッター派遣サー
ビスを利用する場合に使用で
きる割引券を発行しています。
(全教職員対象。要事前申請)



ワーク・ライフ・バランス コンシェルジュ教員

ライフイベント期にある女性
研究者に対し、先輩医師・研
究者が相談にのりアドバイス
や情報提供を行いサポートす
る制度です。



職種別ワークライフバランス・ガイドブック

妊娠・出産・子育てと仕事を
両立しながら働き続けるため
に必要な手続きや本学支援制
度の情報を集めたガイドブック
を作成しています。



搾乳スペースの設置

母乳育児中の女性教職員に向
けた簡易搾乳スペースをセン
ター内に設置しています。
休憩スペースとしてもご利用
いただけます。



カフェタイム

月一回、ランチタイムにセン
ターを開放して女性教職員が
育児・介護や研究について気
軽に話す交流カフェタイムを
実施しています。(毎月8日)



特定地域型保育事業 事業所内保育所

板橋キャンパスに「帝京わか
くさ保育園」を設置。区民・
従業員の0~2歳児のお子様
と一緒に預かりしスムーズ
な職場復帰を支援しています。



病児・病後児保育室

板橋区の委託を受け、板橋キャン
パス敷地内にお子さんの急
な発熱や病気の際にご利用い
ただける病児・病後児保育室
を設置しています。



ジャーナルクラブ

海外一流雑誌掲載の原著論文を題材に、批判的に吟味し読み解くコツ(スタディ・クリティーク)を学ぶ勉強会を定期開催し研究マインドの醸成を図っています。



メンター制度

豊富な知識と経験を有する上位職研究者(メンター)が若手研究者(メンティ)の相談にのりキャリア形成上の課題解決に向け支援・アドバイスをを行います。



外部資金獲得セミナー

科研費など外部資金獲得をめざすことによる若手研究者の研究力向上・マインド醸成を目的に、申請書の書き方のコツを学ぶセミナーを定期的に開催しています。



キャリアアップ・ロールモデルセミナー

国内外で活躍する研究者に現在携わっているフィールドのお話を聞き、若手研究者がキャリアパスを考え、研究・仕事の情報を得るセミナーを開催しています。



講演会・シンポジウムの開催

各国の一流研究者や有識者・専門家を招いて、それぞれの専門分野や男女共同参画に関する最新情報・知見を得て意見交換を行うシンポジウムの他、就労する女性の健康に関する国際シンポジウムを開催するなど、あらゆる角度から参加者の学びになるような取組を行うことで、男女共同参画への理解と意識の向上を図っています。



各種出版物・WEBサイトによる広報活動

広報ツールとして、WEBサイト、Facebookによる情報発信の他、パンフレット、本学女性医師・研究者ロールモデル集、ニュースレターなどの各種媒体を利用し女性研究者支援取組の周知を行っています。



学内ニーズ調査・アンケートの実施

教職員を対象に育児・介護と職場環境に関するアンケート調査を毎年実施。結果はWEBで公開し男女共同参画意識の啓発に結びつけるとともに、より効果的な支援のための検討に役立てています。



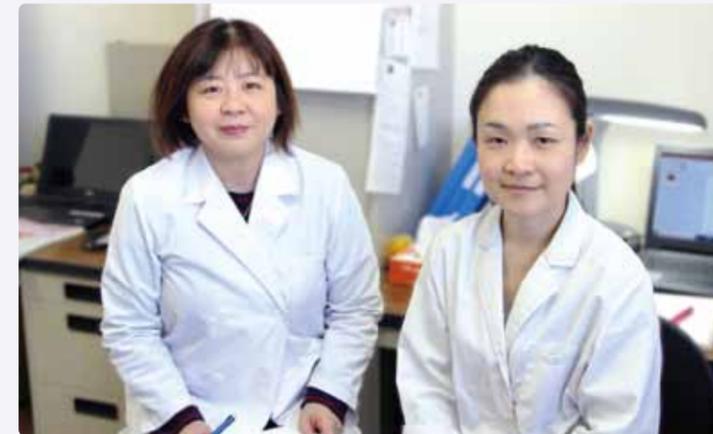
研究支援員制度

研究支援員の配置による研究サポート

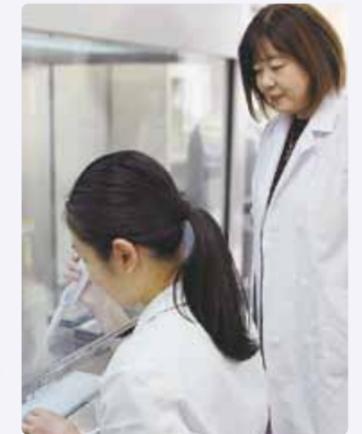
出産・育児・介護などに直面して、研究時間の確保が困難となっている本学女性医師・研究者(※配偶者が研究者である男性研究者を含む)を対象に、研究をサポートするスタッフ「研究支援員」を最大半年間配置し、研究の継続をサポートする制度です。この制度を効果的に利用しながら、多くの女性研究者が業績を積み重ねています。

〈研究支援員制度〉利用者インタビュー INTERVIEW

本学で研究支援員制度を利用し、子育てなどのライフイベントと大学の仕事を両立しながら研究を継続する女性研究者に、支援員との活動の様子や今後の展望を伺いました。



■平澤先生(左)と支援員の加藤さん



■支援活動の様子

神経生理学を専門に自閉症モデルマウスを用いた脳機能研究をしています。赴任後、日本医療研究開発機構(AMED)の予算で「ヒストリジンメチル化制御系に基づく脳機能の理解と治療戦略への展開」というテーマで研究を行っていました。加藤さんには、その時から実験補助員として研究のサポートをお願いしています。予算は終了しましたが、研究は継続するため本制度を利用してこの研究の論文作成に関わるデータの解析やサポーティングデータの取得をしてもらっています。夫は群馬県館林市で企業研究者として勤務しており、週末だけ家族で過ごしています。平日はいわゆる「ワンオペ育児」ですから講義、実習、卒業研究の合間に自分の

研究を進めるのは非常に時間が足りませんが、本制度で助かっています。

研究の仕事は、一度辞めるとなかなか戻ることが難しいと言われていました。仕事内容の男女差がない分、ライフイベントに合わせる働き方にすることは難しいと感じています。最近は介護などの心配も出てきており、このような支援制度があると安心して働けます。一方で、育児や介護は女性だけが担っているわけではありません。将来的には、同じような状況にある男性教員に対しても支援体制が広がっていくとよいのではないかと考えています。

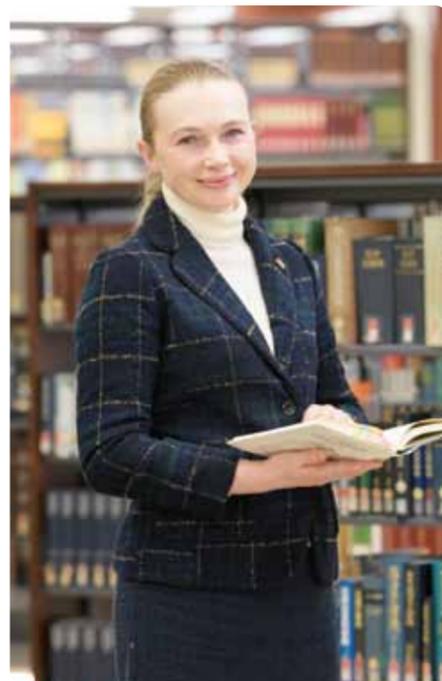
理工学部バイオサイエンス学科
平澤 孝枝 准教授

INTERVIEW

当センターの支援制度を利用しながら日本文化研究を続ける女性研究者と、医学部主任教授として臨床・教育・研究に携わりながら男女共同参画をリードする女性教授のメッセージをご紹介します。

支援制度と女性研究者のつながりを上手に利用しながら

現在、保育園に通う2児を育てています。センター設立当初から制度を利用させていただき、支援のありがたさを実感しています。研究支援員制度を利用した時はデータの打ち込みなどをしてもらい、大きな手助けになりました。現在はベビーシッター割引券発行制度を利用しています。遅くまで仕事をするとシッターに子どものお迎えを頼むことができるなど有効活用しています。日々時間に追われる中、研究のための時間をいかに確保できるか、常に悩んでいます。学内で子育てを終えた先輩方や子育て中の方々に話しかけ、工夫や体験談などを話し合うことでとても元気づけられるので、いろいろな方に相談するようにしています。今後も年々充実しているセンターの支援制度を利用して、仕事と子育ての両立を図っていきたいと思います。



文学部日本文化学科
コルネーエヴァ・スヴェトラナ 講師

“人を大切にする仕事にやりがい”

皮膚科専門の医師として働き始めて24年になります。現在は大病院の診療科として果たすべき3つの役割、「臨床、教育、研究」を意識しつつ、特に患者、同僚を含めて「人を大切にする」とさまざまな判断の根幹に置くようにしています。男女共同参画自体、個人のキャリアプランの実現など「人」を大切にする仕事ですので、その委員として働かせて頂くことに、やりがいを感じています。女性研究者は体力やキャリア継続における社会的信用などで男性に負けていることは否めず、さらに家庭で起きた有事に対処する主役は女性であるべき、という文化の縛りもあります。しかし、困難を成長するチャンスととらえ、諦めず、焦らず、じっくり成長していただきたいと思いますし、そうした頑張る若手女性研究者のお役に立てるよう自分も精一杯尽力したいと思っています。



医学部皮膚科学講座
多田 弥生 教授
(男女共同参画推進委員)

室長からのご挨拶

当センターは2013年の開室以来、皆さまの声に耳を傾け、そしてご協力いただきながら支援活動を展開してまいりました。こうした取組の成果により本学女性教員比率も少しずつ上昇しておりますが、さまざまな面において男女共同参画はまだまだ発展の余地があるといえます。これからも、本学が男女問わず研究者の皆さんにとって魅力的な研究・教育の場であるよう、職場環境整備と研究力向上の2本柱を軸に、各学部男女共同参画委員とともに各機関と連携しながら支援事業に取り組んでまいります。

女性医師・研究者支援センター 室長 金子 希代子 教授



【PROFILE】
帝京大学薬学部薬学科臨床分析学研究室教授。東京大学薬学部、東京大学大学院薬学系研究科修了。博士(薬学)。帝京大学医学部第二内科学教室助手、医学部講師を経て、2006年より薬学部教授。日本分析化学会、日本痛風・核酸代謝学会、日本薬学会、日本リウマチ学会などに所属。

センターのご紹介 板橋キャンパス/病院棟6階

本センターは医療系の学部・研究科やそのほかのセンターなどの団体と密接に連携をするため、板橋キャンパス内に設置され活動を行っています。



- センター長 沖永 寛子
- 室長 金子 希代子
- コーディネーター 関屋 晴子
仲山 洋子

帝京大学 男女共同参画推進委員

帝京大学女性医師・研究者支援センターは、本委員会の承認により活動を行っております。

沖永 寛子	常務理事・副学長	高山 優子	理工学部バイオサイエンス学科 准教授
金子 希代子	薬学部臨床分析学研究室 教授	村上 文	法学部法律学科 教授
安達 三美	医学部生化学講座 教授	大滝 恭弘	医療共通教育研究センター 准教授
多田 弥生	医学部皮膚科学講座 教授	中西 穂高	知的財産センター 教授
山本 麻子	医学部放射線科学講座 講師	土谷 明子	附属病院看護部 看護部長
海野 雄加	医学部微生物学講座 助教	川崎 義隆	附属病院ME部 係長
楯 直子	薬学部生体分子化学研究室 教授	小貫 裕志	本部事務次長
藤原 優子	薬学部物理薬理学研究室 助教	渡辺 靖	本部総務課 課長
大谷 浩樹	医療技術学部診療放射線学科 教授	児玉 雅央	本部人事課 課長
新井 直子	医療技術学部看護学科 准教授	稲垣 宏治	附属病院総務課 課長
池田 結佳	医療技術学部視能矯正学科 准教授	小松 真奈美	板橋キャンパス事務部 係長
関 玲子	医療技術学部臨床検査学科 講師	東 隆博	福岡キャンパス事務部会計課 課長
井上 まり子	大学院公衆衛生学研究科 准教授		

2019年3月31日現在